

2012年度
日本魚類学会年会
プログラム

The 45th Annual Meeting, 2012

期 日：2012年9月21日（金）～24日（月）
場 所：（独）水産大学校キャンパス

日本魚類学会
The Ichthyological Society of Japan

2012 年度日本魚類学会タイムスケジュール

9月21日(金)

12:00-14:30 編集委員会：国際交流会館2階 大研修室

15:00-17:00 評議員会：国際交流会館2階 大研修室

9月22日(土)

12:30-14:30 自然保護委員会：講義棟4階 セミナー室

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--------------------|-------------|-----|-------------|---------------|------------------------|-------------|------|-------------|-----------------------------------|-------|
| 口頭発表 第1会場 講義棟 教室No. 41 | 8:30- | 09:30-11:00 | | 11:15-12:30 | | 13:30-14:30 | 14:30-15:30 | | 15:45-17:00 | 憩親会 シーモール パレス (下関駅横) | |
| | 受付 | 分類 | 1-6 | 総会 受賞者講演 | 休憩 | 昼食 | 分類 | 7-10 | 分類 | | 11-15 |
| | | 生態 | | | | | 生態 | | 生態・卵・稚仔・保全 | | |
| 口頭発表 第2会場 講義棟 教室No. 25 | | 34-39 | | | | | 40-43 | | 44-48 | | |
| ポスター発表 講義棟 No. 36・37 | ポスター発表 奇数番号自由発表 | | | | コアタイム 奇数番号 | ポスター発表 奇数番号自由 発表 | | | | | |

9月23日(日)

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--------------------|-------------|-------|-------------|---------------|------------------------|-------------|-------|-------------|--------------------|
| 口頭発表 第1会場 講義棟 教室No. 41 | 08:30- | 09:30-10:45 | | 11:00-12:00 | | 13:30-14:30 | 14:30-15:30 | | 15:45-17:15 | |
| | 受付 | 分類, 系統 | 16-20 | 系統 | 21-24 | 昼食 | 形態 | 25-28 | 形態, 分布・魚類相 | 29-33 (17:00終了) |
| | | 保全 | | 保全, 行動 | | | 分子遺伝・分子解析 | | 分子遺伝・分子解析 | |
| 口頭発表 第2会場 講義棟 教室No. 25 | | 49-53 | | 54-57 | | | 58-61 | | 62-67 | |
| ポスター発表 講義棟 No. 36・37 | ポスター発表 偶数番号自由発表 | | | | コアタイム 偶数番号 | ポスター発表 偶数番号自由 発表 | | | | |

9月24日(月)

| | | | | |
|---------------------------------|--------|--|-------------|--|
| シンポジウム 共同研究棟 4階 多目的ホール | 08:00- | 09:00-12:45 | 12:45-14:00 | 14:00-16:30 |
| | 受付 | シンポジウム バイカル湖におけるカジカ類の 起源, 適応放散と種分化 | | シンポジウム バイカル湖におけるカジカ類の 起源, 適応放散と種分化 |

- 口頭発表 第1会場：講義棟 教室 No. 41
- 口頭発表 第2会場：講義棟 教室 No. 25
- ポスター発表 会場1, 会場2：講義棟 教室 No. 36, No. 37
- 総会：講義棟 教室 No. 41
- 奨励賞受賞講演：講義棟 教室 No. 41
- オークション：講義棟 教室 No. 35
- 休憩室1, 休憩室2：講義棟 教室 No. 21, No. 31
- 憩親会：シーモールパレス (バスで移動)
- シンポジウム会場：共同研究棟 4階 多目的ホール

研究発表プログラム

口頭発表

(1 演題の持ち時間は、発表 12 分と質疑応答 3 分の計 15 分、共同発表者があるときは○が演者.)

口頭発表第 1 会場 (講義棟 教室 No. 41)

9 月 22 日 (土)

午前の部 09:30-11:00

(分類)

- 1 09:30- フランス国立自然史博物館 (パリ) に現存する日本産魚類標本資料 Langsdorff Collection について
○滝川祐子 (香川大農)・吉野哲夫 (海洋博総合研究セ)
- 2 09:45- 魚類の新種命名権を担保とした研究資金獲得への挑戦
○木村清志 (三重大院水実)・松井 純 (三重大社会連携)・八神寿徳 (三重大知的財産)
- 3 10:00- 学名の出版の日付に関する厳密解釈
武藤文人 (東海大海洋)
- 4 10:15- 日本産ヘラアナゴ属魚類について
波戸岡清峰 (大阪自然史博)
- 5 10:30- ハワイ諸島近海で採集されたトウジン属の 1 未記載種 (タラ目: ソコダラ科)
○中山直英 (高知大理)・佐藤 崇 (科博)・遠藤広光 (高知大理)
- 6 10:45- インド洋一西太平洋から得られたトウゴロウイワシ科ギンイソイワシ属の 2 未記載種
○笹木大地・木村清志 (三重大院水実)

2012 年度 日本魚類学会学会賞

日本魚類学会奨励賞 受賞講演

「魚類の多様な繁殖戦略のさらなる理解に向けて: 進化・行動生態学的アプローチ」

安房田智司 (新潟大理臨海)

日時 9 月 22 日 12:00 - 12:30

場所 第 1 会場 (講義棟 教室 No.41)

日本魚類学会論文賞

「Distribution of the oriental weatherloach, *Misgurnus anguillicaudatus*, in paddy fields and its implications for conservation in Sado Island, Japan」

鹿野雄一 (九大院工)・河口洋一 (徳島大院工)・山下奉海・島谷幸宏 (九大院工)

「琉球列島におけるフナの分布と生息場所: 在来フナと移植フナの比較」

高田未来美 (東大大気海洋研)・立原一憲 (琉球大院理工)・西田 睦 (東大大気海洋研)

午後の部 14:30-17:00

(分類)

- 7 14:30- メダカ東韓集団の形態学的特徴
○朝井俊亘 (近大院農)・金 治弘 (韓国水産院)・瀬能 宏 (神奈川県博)・細谷和海 (近大院農)
- 8 14:45- フサカサゴ科ノコギリカサゴ属 (*Scorpaenidae: Brachypterois*) の分類学的再検討
○松沼瑞樹 (鹿大連農)・櫻井 真 (鹿児島純心女短)・本村浩之 (鹿大総博)
- 9 15:00- タイ科ヨーロッパダイ属 *Pagellus* 魚類における帰属の再検討
○田中文也 (宮崎大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 10 15:15- タイ科タイワンダイ属 (*Argyrops*) 魚類の分類学的再検討
○岩槻幸雄 (宮崎大農)・Phillip C. HEEMSTRA (SAIAB)

休憩 15:30-15:45

- 11 15:45- 南大東島および小笠原諸島から採集されたハタンポ科ハタンポ属の 1 未記載種
○小枝圭太 (琉大院理工)・吉野哲夫 (元琉大理)・立原一憲 (琉大理)
- 12 16:00- 沖縄県石垣島に水揚げされるハナフエダイの 2 型
○下瀬 環・鈴木伸明 (水研セ西海水研石垣)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 13 16:15- 沖縄から得られたヘビギンポ属の 1 日本初記録種と 1 未記載種
○目黒昌利 (鹿大連大)・本村浩之 (鹿大総博)
- 14 16:30- インド・西部太平洋域におけるタチウオ科タチウオ属 *Trichiurus lepturus* 種群の分類学的再検討
○日高浩一・酒井 猛・塚本洋一 (水研セ西海水研)・Daniel GOLANI (ヘブライ大)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 15 16:45- ハナトゴダルマとヒナダルマは *Bothus brunneus* Fowler, 1934 および *Laeops gracilis* Fowler, 1934 のシノニムか?
尼岡邦夫 (北大)

9月23日(日)

午前の部 09:30-12:00

(分類, 系統)

- 16 09:30- アカシタビラメとデンベエシタビラメの遺伝的比較
○田路拓人 (京大院農卒)・中山耕至 (京大フィールド研)
- 17 09:45- アバチャン (クサウオ科: スイショウウオ属) に見られる 2 色彩型の遺伝的差異
○東海林 明 (京大院農)・甲斐嘉晃 (京大フィールド研)・上田祐司 (日水研)・濱津友紀 (北水研)・伊藤正木 (東北水研)・中坊徹次 (京大総博)
- 18 10:00- 北太平洋におけるコンペイトウ (ダンゴウオ科) の形態変異と遺伝的集団構造
○甲斐嘉晃 (京大フィールド研)・Duane STEVENSON (NOAA/AFSC)・上田祐司 (日水研)・濱津友紀 (北水研)・中坊徹次 (京大総博)
- 19 10:15- インドー太平洋域におけるアイゴの遺伝的集団構造の歴史的成り立ちと形態学的分析ーシモフリアイゴの分類学的位置付けー
○岩本健輔 (沖縄水海研セ)・吉野哲夫 (海洋博総合研究セ)・今井秀行 (琉球大理)

- 20 10:30- 板鰓類とそれに寄生する Onchobothriidae 科条虫類の共種分化
○倉島 陽 (東大院理)・清水俊哉・間野伸宏 (日大生物資源)・小川和夫 (目黒寄生虫館)・
藤田敏彦 (国立科博)

休憩 10:45-11:00

午前の部 11:00-12:00
(系統)

- 21 11:00- 系統発生的視点によるカライワシ下区アセウツボの胃と腸における光顕および走査型電子顕微鏡による研究
○滝上俊平・秋吉英雄 (島根大・生物資源科学)
- 22 11:15- 骨格系から見たアユモドキの系統的位置
○乾 偉大・細谷和海 (近大院農)
- 23 11:30- アジ科ヨロイアジ属の多系統性と *Carangoides praeustus* の系統的位置
○武内 俊・安井伸太郎・木村清志 (三重大院水実)・栗岩 薫 (国立科博)
- 24 11:45- タウエガジ科 *Ernogrammus zhirimuskii* の系統的位置の推定
○山中智之・矢部 衛 (北大院水産)

午後の部 14:30-15:30
(形態)

- 25 14:30- 板鰓亜綱(サメ・エイ類)の噴水孔器官に見られた多様性
○戸田 実・宮本 圭・内田詮三 (海洋博研セ)・仲谷一宏 (北大)
- 26 14:45- 沖縄美ら海水族館で飼育されているオスのジンベエザメの成熟過程
○松本瑠偉 (美ら海水族館)・青木一樹・鶴野淳企・朝比奈潔 (日大生物資源)・松本葉介・
植田啓一・佐藤圭一 (海洋博研セ)
- 27 15:00- Comparative Osteology of Lizardfishes, Family Synodontidae
○Monruedee CHAIYAPO・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 28 15:15- アシロ科魚類の腹鰭の位置とその関連構造
○大橋慎平・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)

休憩 15:30-15:45

午後の部 15:45-17:00
(形態, 分布・魚類相)

- 29 15:45- ハリゴチ科魚類の形態学的特異性と底生適応
○永野優季・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 30 16:00- カワアナゴ科 2 亜科 5 属 7 種における側線系とその神経支配
—多様な感丘の配列と神経の分岐パターン—
○朝岡 隆 (高知大院理)・佐々木邦夫 (高知大理)
- 31 16:15- バイカル湖に固有のカジカ類 *Comephorus baicalensis* の顎の機能形態
○佐々木嘉子・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)

- 32 16:30- 中禅寺湖に生息する淡水カジカ類は琵琶湖より非意図的にもたらされたウツセミカジカ *Cottus reinii* である
○横山良太・山本祥一郎（水研セ増養殖研）
- 33 16:45- 西日本における現在および過去の淡水魚の潜在出現モデル
○渡辺勝敏（京大院理）・鹿野雄一（九大工院）・大槻順朗（東京理大理工）・張廖年鴻・中川 光・富永浩史・柿岡 諒・田畑諒一（京大院理）

口頭発表第2会場（講義棟 教室 No. 25）

9月22日（土）

午前の部 09:30-11:00

（生態）

- 34 09:30- 漁業情報に基づくドロクイ属魚類の分布と生息環境
○上原匡人（沖水海研セ・琉大院理）・太田 格・海老沢明彦（沖水海研セ）・立原一憲（琉大理）
- 35 09:45- タナゴ類4種が生息する河川でのミナミアカヒレタビラの生活史
○鴛海智佳（鳥大院連合農）・國井秀伸（鳥根大汽水セ）
- 36 10:00- メコン河における Siamese mud carp の回遊生態解明
○福島路生・野原精一（国立環境研）・Tuantong JUTAGATE・Chaiwut GRUDPAN（ウボン大）
- 37 10:15- アヌモドキの産卵遡上と人為的水位変動
○阿部 司（ラーゴ・岡山理大）・阿部まりあ（岡山淡水魚研）・渡辺勝敏（京大院理）
- 38 10:30- 強い釣獲圧がかかる場合のアユの最適放流密度
片野 修（増養殖研）
- 39 10:45- 西湖のクニマスの産卵実態
○青柳敏裕・岡崎 巧・加地奈々・高橋一孝（山梨水技セ）

午後の部 14:30-15:30

（生態）

- 40 14:30- 阿武隈山地に生息する短鰭イワナの隔離個体群
○井口恵一朗（水研セ増養殖研）・宮原寿恵（三重大院生資）・森田健太郎（水研セ北水研）・棗田孝晴（千科大）・稲葉 修（南相馬市博）・河村功一（三重大院生資）
- 41 14:45- 低水温維持のために必要な溪畔林の樹冠率の算定
中村智幸（水研センター）
- 42 15:00- 大分県下の河川に出現するスズキ成魚の性比
景平夏生（明野中）・○景平真明（大分県農林水研セ）
- 43 15:15- 炭素・窒素安定同位体比分析による福井県三方湖の食物網構造解析
○草野 充・杉本 亮・佐藤専寿（福井県立大学）・吉田丈人（東京大学）・富永 修（福井県立大学）

休憩 15:30-15:45

午後の部 15:45-17:00

(生態, 卵・稚仔, 保全)

- 44 15:45- アユの初期発育・成長のベトナムと日本（土佐湾, 瀬戸内海, 日本海）間での比較
○Hau D. TRAN・木下 泉（高知大海洋研）・東 健作（西日本科技研）・井関智明・八木佑太（水総研セ・日水研）・布部淳一（いであ）
- 45 16:00- ベトナムで採集された分布域最南端のアユの遺伝的特徴
○武島弘彦（東大大気海洋研）・Hau D. TRAN・木下 泉（高知大海洋研）・井口恵一郎（水研セ増養殖研）・西田 睦（東大大気海洋研）
- 46 16:15- ボウズハゼ亜科の仔魚の形態と浮遊期間
○前田 健（OIST）・花原（山崎）望（名護市）・飯田 碧・立原一憲（琉大理）
- 47 16:30- 汽水性希少ハゼ類を指標にした徳島県における保全上重要な河川汽水域の抽出
○乾 隆帝・竹川有哉・河口洋一・竹村紫苑（徳島大院工）・鬼倉徳雄（九大院農）・鎌田磨人（徳島大院工）
- 48 16:45- 中卵型ヨシノボリは、なぜダムが建設されると絶滅するのか？
進藤亮次（琉球大理）・近藤 正（琉球大院理工学研究科）・立原一憲（琉球大理）

9月23日（日）

午前の部 09:30-10:45

(保全)

- 49 9:30- 消化酵素活性から見たバラタナゴの好適初期餌料系列
○北川哲郎（近大院農）・川合真一郎（甲子園大）・細谷和海（近大院農）
- 50 9:45- ギバチに対する間伐材を用いた小型魚礁の効果
○勝呂尚之・安斉 俊（神奈川水技セ内水試）・住倉英孝（NPO 法人・KWN）
- 51 10:00- 絶滅危惧種リュウキュウアユにおける河床耕耘の産卵場造成効果の検証
○安房田智司（新潟大理臨海）・鶴田哲也（大阪産大人間環境）・阿部信一郎（水研セ日水研）・井口恵一郎（水研セ増養研）
- 52 10:15- 大井川水系明神沢のアマゴ
川嶋尚正（静岡県庁）
- 53 10:30- 連続する小規模ダムが在る河川と無い河川におけるアマゴの短距離移動の比較
○齋藤竜也（東海大海洋）・川嶋尚正・鈴木邦弘（静岡水技研）・檜島弘隆・松村 哲・佐藤祐也・櫻岡拓也・赤川 泉（東海大海洋）

休憩 10:45-11:00

午前の部 11:00-12:00

(保全, 行動)

- 54 11:00- 全国 37 湖沼の純淡水魚類相の変化：マクロエコロジーからの視点
○松崎慎一郎（国立環境研生物セ）・赤坂宗光（東農工大院農）
- 55 11:15- 放流されたサケ稚魚は、いつ、どこをかって川を下るのか？
○長谷川功・高橋 悟（北水研）

- 56 11:30- 独身化した雄の配偶者再獲得戦術: 一夫多妻のホンソメワケベラの場合
 ○桑村哲生 (中京大国際教養)・門田 立 (水研セ西海水研)・鈴木祥平 (琉球大亜熱帯島嶼科学)
- 57 11:45- 潜水観察に基づいた魚類繁殖記録のデータベース
 —繁殖エリアと時期の長期的変化を解明する試み
 ○川瀬裕司 (千葉中央海博)・須之部友基 (海洋大館山)・加藤昌一 (レグルス)

午後の部 14:30-17:15
 (分子遺伝・分子解析)

- 58 14:30- ヒナモロコの系統地理と福岡県における保全方針の提案
 ○中島 淳 (福岡県保環研)・小早川みどり (福岡市)・中村朋史 (福岡県保環研)・高久宏佑 (自環研セ)・鹿野雄一 (九大院工)・乾 隆帝 (徳島大院工)・大石 敏 (福岡県田主丸特支校)・鬼倉徳雄 (九大院農)・細谷和海 (近大院農)
- 59 14:45- 淀川水系イタセンパラ飼育個体群の遺伝的多様性と野外再導入策への提言
 ○北西 滋 (立命館大)・西尾正輝 (氷見市教育委員会)・上原一彦 (大阪水生生物センター)・小川力也 (西野田工科高等学校)・横山達也 (大阪市水道記念館)・江戸謙顕 (文化庁)
- 60 15:00- 琵琶湖産魚類の起源とミトコンドリアゲノムにおける適応進化の可能性
 ○田畑諒一・柿岡 諒・小宮竹史・渡辺勝敏 (京大院理)
- 61 15:15- 次世代シーケンサーを利用した魚類のマイクロサテライト DNA の単離
 中村洋路・重信裕弥 (水研セ中央水研)・菅谷琢磨 (水研セ瀬戸内水研)・黒川忠英 (水研セ東北水研)・○斉藤憲治 (水研セ中央水研)

休憩 15:30-15:45

- 62 15:45- タモロコ属魚類における生息場所利用と関連した適応的形態進化の遺伝基盤
 ○柿岡 諒 (京大院理)・小北智之・熊田裕喜 (福井県立大)・渡辺勝敏 (京大院理)・奥田昇 (京大生態研)
- 63 16:00- 性ホルモンシグナリングの適応的な遺伝的分化と繁殖システムの多様化
 ○小北智之・山元麻由美・野々垣初音 (福井県立大)・北野 載・松山倫也 (九大院農)・森 誠一 (岐阜経済大)
- 64 16:15- アムダリアデルタのアラルトミヨ *Pungitius platygaster aralensis* の遺伝的特徴
 ○高橋 洋 (水大校)・Ramatulla TEMIRBEKOV (UAS)
- 65 16:30- シマヅイとタヌキメバルにおける過去の交雑の痕跡
 ○武藤望生 (京大院農)・甲斐嘉晃 (京大 FSERC)・野田 勉 (水研セ宮古)・中坊徹次 (京大総博)
- 66 16:45- 伊豆諸島—小笠原群島間におけるアカハタの系統地理
 ○栗岩 薫・千葉 悟 (国立科博)・本村浩之 (鹿大総博)・松浦啓一 (国立科博)
- 67 17:00- 核遺伝子配列から推定された日本産ヨシノボリ属魚類の系統関係
 ○山崎 曜 (京大院理)・西田 睦 (東大大気海洋研)・鈴木寿之 (兵庫県立川西緑台高)・向井貴彦 (岐阜大地域)・渡辺勝敏 (京大院理)

ポスター発表

(ポスターは発表初日の9月22日午前9時30分までに指定の場所に貼附し、2日間掲示する。
奇数演題のコアタイムは9月22日13:30-14:30、偶数演題は9月23日13:30-14:30.)

ポスター発表会場 (講義棟教室 No. 36, No. 37)

- 68 タカサゴ科魚類のミトコンドリア DNA および核 DNA に基づいた分子系統解析
○ 昆 健志 (東邦大理)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 69 北浦のヨシ帯における魚類の季節的出現と分布様式
○ 碓井星二 (東大院農)・加納光樹・百成 渉・金子誠也 (茨城大水圏セ)・荒山和則 (茨城県漁政課)・佐野光彦 (東大院農)
- 70 滋賀県北部河川のウグイ *Tribolodon hakonensis* 仔稚魚の餌資源
○ 仲島佑美・吉田直子・伊藤琢磨・遊磨正秀 (龍谷大学理工)
- 71 黒潮流域におけるイシヨウジの遺伝的集団構造：隠蔽種の存在？
○ 曾我部 篤 (東北大浅虫)・高木基裕 (愛媛大南水研セ)
- 72 競争優位種の空間配置と攻撃頻度：リーフサイズはいかにスズメダイ科魚類群集に影響を与えるか？
○ 服部昭尚 (滋賀大教育・情報技術)・澁野拓郎 (水研セ・増養殖研)
- 73 移入イトヨとの交雑による在来ハリヨ集団の個体群特性の変化
○ 清水雅哉 (福井県立大)・森 誠一 (岐阜経済大)・小北智之 (福井県立大)
- 74 イトヨ那須集団における近年の集団内鱗板変異パターンと遺伝的多様性
○ 鈴木悠斗 (福井県立大)・森 誠一 (岐阜経済大)・吉田 豊 (栃木水試)・小北智之 (福井県立大)
- 75 ミヤコタナゴ稚魚の棲みやすい環境を増やすー生息環境評価モデルの構築と環境改善ー
○ 綱川孝俊 (栃木水試)・酒井忠幸 (栃木県生産振興課)・吉田 豊・久保田仁志 (栃木水試)・佐川志朗 (兵庫県大自然研)
- 76 台湾東部海域で確認された運動性のある精子を持つヤリマンボウ
○ 澤井悦郎 (広大生物圏)・山野上祐介 (東大水実)・張 永州 (台湾・慈濟大)・坂井陽一 (広大生物圏)
- 77 遺伝的多様性を指標とした河川改修による魚類地域集団への影響の評価
○ 大井章豊・安藤元一・小川 博・佐々木 剛 (東農大農野生動物)
- 78 イソギンポ科魚類にみられる特殊な筋肉要素
○ 中江雅典・篠原現人 (国立科博)・佐々木邦夫 (高知大理)
- 79 沖縄舟状海盆から記録された深海性アナゴ科魚類 *Blachea xenobranchialis*
○ 櫻井慎大・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 80 沖縄島におけるヒメジ科魚類の摂餌行動の比較
○ 鮫島翔太 (琉球大院理工)・立原一憲 (琉球大理)
- 81 ホタルジャコ科オオメハタ属魚類の骨学的研究
○ 山野上祐介 (東大水実)・松浦啓一 (国立科博)
- 82 鹿児島県から得られた日本初記録のテンジクダイ科魚類 *Apogon fleurieu*
○ 吉田朋弘 (鹿大連農)・本村浩之 (鹿大総博)
- 83 東京都大田区洗足池で採集された浮遊仔魚のマイクロハビタット利用
○ 赤木光子 (千葉大院園芸)・丸山 隆 (元東京海洋大)・小林達明 (千葉大院園芸)

- 84 新潟県沿岸域におけるアカムツの食性
○八木佑太・井関智明・上原伸二（水研セ日水研）
- 85 日本および台湾から得られたウミヘビ科ムカシウミヘビ属の1未記載種
○日比野友亮・木村清志（三重大院水実）・Hsuan-Ching HO（NMMB）
- 86 ツマグロカジカとアイカジカの稚魚期における分類形質としての色素胞出現パターンの有効性
○山崎 彩（北大院環）・宗原弘幸（北大FSC）
- 87 ネズミフグの卵および仔魚
土井啓行・○園山貴之・玉井健太・石橋敏章（下関水族館）・酒井治己（水大校）
- 88 若狭湾西部海域におけるスジハゼ複合種群仔魚の分布・分散生態
○松井彰子・上野正博・中山耕至・甲斐嘉晃・山下 洋（京大フィールド研）
- 89 スズメダイ科“キホシスズメダイ”の分類学的位置づけ
○岩坪洗樹（鹿大院水産）・山川 武（高知市）・本村浩之（鹿大総博）
- 90 日本産ネッタIFサカサゴ属の分類学的再検討
本村浩之（鹿大総博）
- 91 ペルー沖で採集されたキホウボウ科マトキホウボウ *Peristedion barbiger*
○天田未貴（油壺マリンパーク）・河合俊郎（北大総合博）
- 92 ニューカレドニア沖から得られたカゴシマニギス属の1未記載種
遠藤広光（高知大理）
- 93 涸沼の塩性湿地内クリークにおける魚類の出現様式
○金子誠也・百成 渉・加納光樹（茨城大水圏セ）・碓井星二（東大院農）・柴田真生（タケエ
イ）
- 94 日本産トビギンポ属魚類の形態的変異
○片山英里・佐藤 崇・松浦啓一（国立科博）
- 95 日本産ウラナイカジカ属魚類大型種の分類形質の再考
○北畠 空・今村 央・矢部 衛（北大院水産）
- 96 沖縄島におけるゴマハゼ属2種の成熟
○西丸裕敏（琉大院理工）・立原一憲（琉大理）
- 97 John C. Briggs による全熱帯域を周回分布する魚類の分類学的見地の変更の有無と現状
○小野真理子・田中文也（宮崎大院農）・岩槻幸雄（宮崎大農）
- 98 熊野灘の沖合底曳網漁で漁獲される魚類
○川端 青・細谷和海（近大院農）・久保喜計（近大農）
- 99 スラウェシ島のメダカ属およびアドリアニクチス属魚類の系統関係
○Daniel F. MOKODONGAN・山平寿智（琉大熱生研）
- 100 沖縄島におけるミノカサゴ亜科2種キリンミノとハナミノカサゴの食性
○小泉翔平・立原一憲（琉大理）
- 101 カワヤツメ浸透圧調節関連遺伝子が生活史決定に与える影響の検討
○山崎裕治・長井輝美（富山大理）
- 102 トラザメ *Scyliorhinus torazame* の視覚特性
○六車香織（名大院生命農）・武井史郎（愛知県コロニー病理）・山本直之（名大院生命農）
- 103 愛媛県肱川流域におけるヒナイシドジョウの形態学的変異
○藤井明日香・川西亮太・土肥竜太・井上幹生（愛媛大院理工）・清水孝昭（愛媛水研セ）

- 104 博物館標本と聞き取り調査によって朱太川水系における過去の魚類相を再構築する試み
○宮崎佑介・吉岡明良・鷺谷いづみ（東大院農）
- 105 琉球海溝陸棚斜面から採集された日本初記録のセキトリイワシ科魚類 *Conocara krefftii*
○高見宗広・福井 篤（東海大海洋）
- 106 西部北太平洋から採集されたシオイタチウオ亜科（アシロ科）の仔稚魚
○若月園香（東海大院海洋）・福井 篤（東海大海洋）
- 107 琉球列島から得られた日本初記録のヘビギンポ科クロマスク属 *Helcogramma aquila*
○田代郷国（鹿大水産）・本村浩之（鹿大総博）
- 108 鹿児島県与論島におけるスズメダイ科魚類相
○西山 肇（鹿大院水産）・本村浩之（鹿大総博）
- 109 鹿児島県口永良部島の潮間帯上部に生息するイソギンポ科タネギンポ[♀] *Palaealticus tanegashimae*の生態
○木村祐貴・坂井陽一（広島大院生物圏）
- 110 ここまでわかった雑種生殖
堀田海帆・鈴木将太・風間香澄・木村幹子・○宗原弘幸（北海道大学白尻実験所）
- 111 ミトコンドリア DNA の D-loop 領域からみた日本産アカメの遺伝的集団構造
○井本会美（宮大院農）・瀬能 宏（神奈川県博）・遠藤広光（高知大理）・増田元保（碧南海浜水族館）・田中文也（宮大院農）・岩槻幸雄（宮崎大農）
- 112 琵琶湖流入河川におけるウツセミカジカ仔魚の流下生態
木伏宏俊（福井県大）・吉田直子・遊磨正秀（龍谷大理工）・○田原大輔（福井県大）
- 113 広島県大崎上島に侵入した釣餌用魚類
吉郷英範（中外テクノス）
- 114 北九州市産前期白亜紀リコプテラ目魚類の一未記載種
藪本美孝（北九州自然史博）
- 115 西湖で捕獲されたクニマスの人工採卵について
○加地奈々・名倉 盾（山梨水技セ）
- 116 ハゼ科魚類は多摩川河口干潟域をどのように利用しているのか？
○田村 康・関澤知彦・茂木正人・河野 博（海洋大）
- 117 ウツセミカジカの生息場所の物理的環境条件
○小澤真帆・伊藤琢哉・仲島佑美・吉田直子・遊磨正秀（龍大院理工）
- 118 Multiplex PCR 判別法を用いた琉球列島在来・移殖フナの判別とそれらの分布の詳細
○高田未来美（東大大海研）・立原一憲（琉球大理）・西田 睦（東大大海研）
- 119 多摩川河口干潟域に優占するハゼ科魚類 5 種の出現様式
○関澤知彦・田村 康・茂木正人・河野 博（海洋大）
- 120 ミトコンドリアゲノム全長配列から推定されたダルマガレイ科魚類の系統関係
○佐藤 崇（国立科博）・宮 正樹（千葉中央博）・西田 睦（東大大気海洋研）
- 121 岐阜市におけるデメモロコの生息環境と生活史
○古田莉奈・古橋 芽・向井貴彦（岐阜大地域）
- 122 琵琶湖水系の魚類における流入河川と琵琶湖とのつながりの意義
○石崎大介・亀甲武志（滋賀水試）・淀 太我（三重大院生資）・大久保卓也（琵琶湖センター）
- 123 間欠流河川における流量変動に対するヒナインドジョウの反応
○土肥竜太・松田太樹・川西亮太・井上幹生・藤井明日香（愛媛大院理工）

- 124 沖縄島から採集されたフエフキダイ科メイチダイ属の1未同定種
○三木涼平・岩槻幸雄（宮崎大農）
- 125 多摩川河口域に出現したハゼ科3種の種間関係
○松崎圭佑・渡邊亮太（東京海洋大大学院）・茂木正人・河野 博（東京海洋大）
- 126 東南極リュッツォ・ホルム湾沖におけるナンキョクダルマハダカ（ハダカイワシ科）仔稚魚の食性
○若原千恵子・河野 博・茂木正人（海洋大）
- 127 ハゼ科魚類における中枢視覚路系
○佐藤 萌・山本直之（名大生命農）
- 128 大阪府におけるニッポンバラタナゴの生息状況
○高森亮佑・田口峻一・藤原基季（大阪産大人間環境）・三宅琢也・河村功一（三重大院生資）・加納義彦（NPO 高安研究会）・鶴田哲也（大阪産大人間環境）
- 129 鹿児島県で採集された日本初記録のカタクチイワシ科魚類 *Encrasicholina devisi* および近縁種との比較
○畑 晴陵（鹿大水産）・本村浩之（鹿大総博）・石森博雄（琉球大理）
- 130 バラタナゴの2亜種とその交雑種の環境選択およびハビタット重複度の見積もり
○川本朋慶・林 浩介・小山彰彦・鬼倉徳雄（九大院農）
- 131 東日本大震災によって新浜湖の塩性湿地魚類群集に生じた変化
○加納光樹（茨城大水圏セ）・中山聖子（東邦大東京湾セ）・碓井星二（東大院農）・金子誠也・百成 渉（茨城大水圏セ）・風呂田利夫・柚原 剛（東邦大院理）・今 孝悦（筑波大下田セ）
- 132 駿河湾におけるアオメエソの生態一体長，体重，生殖線指数の月別変化
○猿渡敏郎（東大大海研）・岩田恵理（いわき明星大）・藤井千春（岩手県博）・倉石 信（ふくしま海洋科学館）
- 133 ダム事業に伴う河川陸封型カジカ *Cottus sp.*の移植の考え方
○宮島泰志・安形仁宏・坂本健太郎（建技九州）・菊永和久・橋口 忍（国交省長崎）・村岡敬子・山下慎吾（独法土研）
- 134 西部太平洋産ソトオリイワシ属魚類の分類学的研究
○鈴木貴志（高知大院理）・遠藤広光（高知大学理）
- 135 長野県北部におけるシナイモツゴの吸虫類感染個体の増加とその影響について
○小西 繭（信州大 SVBL）・安房田智司（新潟大理臨海）・井口恵一朗（水研セ養増殖研）
- 136 国立科学博物館に所蔵する四国海盆や小笠原諸島近海で採集された深海魚標本
○篠原現人・中江雅典・佐藤 崇（国立科博）・Christopher P. KENALEY（ハーバード大）・Theodore W. PIETSCH（ワシントン大）・松浦啓一（国立科博）
- 137 滋賀県内における魚類が利用可能な水田とその現状
○金尾滋史（琵琶湖博物館）・舟尾俊範・田和康太（滋賀県大院環境）・前畑政善（神戸学院大 人文）・沢田裕一（滋賀県大環境）
- 138 日本産ドンコの系統地理
○向井貴彦・加藤千尋（岐阜大地域）
- 139 岩盤河川におけるカジカ大卵型の移動個体と定住個体とを分ける要因
○藁田孝晴（千科大危機管理）・井口恵一朗（水研セ増養殖研）
- 140 ブダイ科仔稚魚の識別形質の検討
○宮本 圭・岡慎一郎（海洋博研セ）

- 141 SNPs 解析によるオオクチバス 2 亜種混成集団の集団構造の経年変化
○奥田孝太・池田雄基・竹林 惇・蔵本泰輔・北川忠生（近大院農）・奥田 昇（京大生態研）・
淀 太我（三重大院生資）・高田啓介（信州大理）
- 142 小河川の感潮域におけるニホンウナギ *Anguilla japonica* の出現パターンと隠れ場所の利用
○塚田敦志・原田貴大・長岐 潤・赤川 泉（東海大海洋）
- 143 ジュズカケハゼ種群の分布
○千葉 悟（国立科博）・渋川浩一（長尾財団）・向井貴彦（岐阜大地域）・半澤直人（山形大理）
- 144 瀬戸内海周防灘中津干潟における絶滅危惧種アオギスの最新の生息状況
○重田利拓・手塚尚明・中川倫寿（水研セ瀬戸内水研）・重田勝利（山口市）
- 145 南大洋インド洋セクターで得られたナンキョクソコイワシ *Bathylagus antarcticus*（ソコイワシ科）
の変態期を含む初期発育
○伊藤尚子・河野 博・茂木正人（海洋大）
- 146 タナカゲング *Lycodes tanakae* の遺伝的集団構造
○佐久間 啓（東大大気海洋研）・上田祐二（日水研）・小島茂明（東大大気海洋研）
- 147 琵琶湖流入 26 河川におけるアユの産卵適地
小澤元生（龍谷大学院理工）

2012 年度日本魚類学会年会シンポジウム

会 場：共同研究棟多目的ホール
日 時：2012 年 9 月 24 日（月）9:00-16:30

バイカル湖におけるカジカ類の起源、適応放散と種分化 Origin, adaptive radiation and speciation of sculpins in Lake Baikal

コンビーナー：後藤 晃（北教大）・木下 泉（高知大海洋研）

I. 開催趣意

1. 9:00- 9:15 バイカルカジカ類の研究経緯と概要
後藤 晃（北教大）

II. 起源・適応放散・種分化

2. 9:15- 9:40 バイカル湖の物理・生物的環境の特徴およびカジカ類の形態的・生態的多様性
Valentina G. SIDELEVA（動物学研究所 RAS）
3. 9:40-10:05 バイカルカジカ類の起源と系統関係
○後藤 晃（北教大）・横山良太（水研セ増養殖研）
Valentina G. SIDELEVA（動物学研究所 RAS）
4. 10:05-10:30 バイカルカジカ類の遊泳性魚類における仔稚魚の形態と分布の特徴
木下 泉（高知大海洋研）
5. 10:30-10:55 浅水性バイカルカジカ類の生態
宗原弘幸（北大 FS セ）
10:55-11:05 <コーヒーブレイク>
6. 11:05-11:30 底生性カジカ類の適応放散と種分化：プロコッタス属
横山良太（水研セ増養殖研）
7. 11:30-11:55 半遊泳性カジカ類の適応放散と種分化：コットコメフォルス属
高橋 洋（水大校）
8. 11:55-12:20 バイカル湖におけるヨコエビ類の種分化
益子計夫（帝京大・医療技術）
9. 12:20-12:45 バイカル湖における巻貝類の多様性、生態および適応放散
Tatiana Ya. SITNIKOVA（陸水学研究所 RAS）
12:45-14:00 <昼食休憩>

III. 総合論議：コーディネーター（後藤 晃（北教大）・木下 泉（高知大海洋研）・酒井治己（水大校））

10. 14:00-14:25 コメンテーター 1）バイカルカジカ類の進化研究の面白さ
西田 睦（東大大気海洋研）
11. 14:25-14:50 コメンテーター 2）熱帯域の古代湖におけるシクリッド類の進化
高橋鉄美（京大院理）
12. 14:50-15:15 コメンテーター 3）バイカルカジカ類の種間系統を解く試みから
馬淵 浩司（東大大気海洋研）
15:15-15:30 <コーヒーブレイク>
15:30-16:30 フリーディスカッション

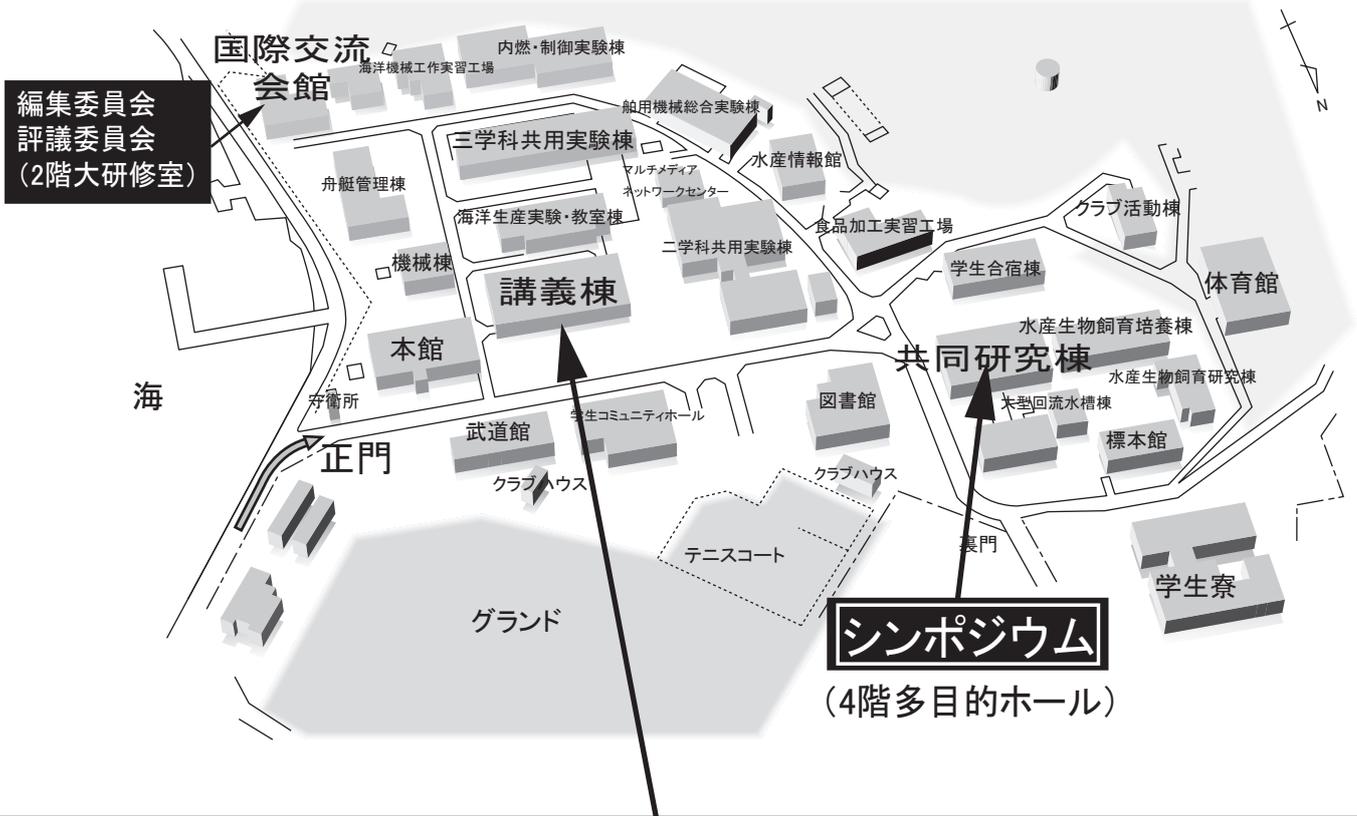
[シンポジウムの趣旨]

東シベリアに位置するバイカル湖は世界でもっとも古く（約 3 千万年前）、もっとも深い淡水湖（1,640m）であり、現在 15 科 33 属 61 種・亜種の魚類が分布する（そのうち 55 種・亜種は在来）。この魚類相の中でもっとも種多様性が高いのは湖の浅所から最深部にまで生息しているカジカ類（一般に、バイカルカジカ類と呼ばれる）である。彼らは、3 科（カジカ科、アピソコッタス科、コメフォルス科）12 属 33 種から構成されており、その幅広い水深帯と広大な沖合帯での生息に相応して多様な形態、生態、生殖様式を有している。そのため、バイカルカジカ類は古代湖における魚類の適応放散・種分化の好例であると言われてきたが、熱帯域の古代湖であるビクトリア湖やタンガニーカ湖におけるシクリッド類の研究に較べると、その進展は著しく遅れている。

近年における分子系統研究によって、バイカルカジカ類は単系統群であり、その起源年代も以前の見積と異なって 250 万年～500 万年前とそれほど古いものではないことが明らかになりつつある。しかし、彼らがどのような祖先種に起源し、どのように本湖の深所や沖合に適応放散し、またその過程でいかに種分化したのかについてはまだほとんど明らかにされていない。

本シンポジウムでは、1990 年代初頭から約 20 年間にわたって日本とロシアの研究者による共同研究として進められてきた研究の経緯と、起源、適応放散、種分化などの研究成果について発表・論議することによって、バイカルカジカ類の進化史の総合的な理解を深めるとともに、今後の研究課題を検討する。

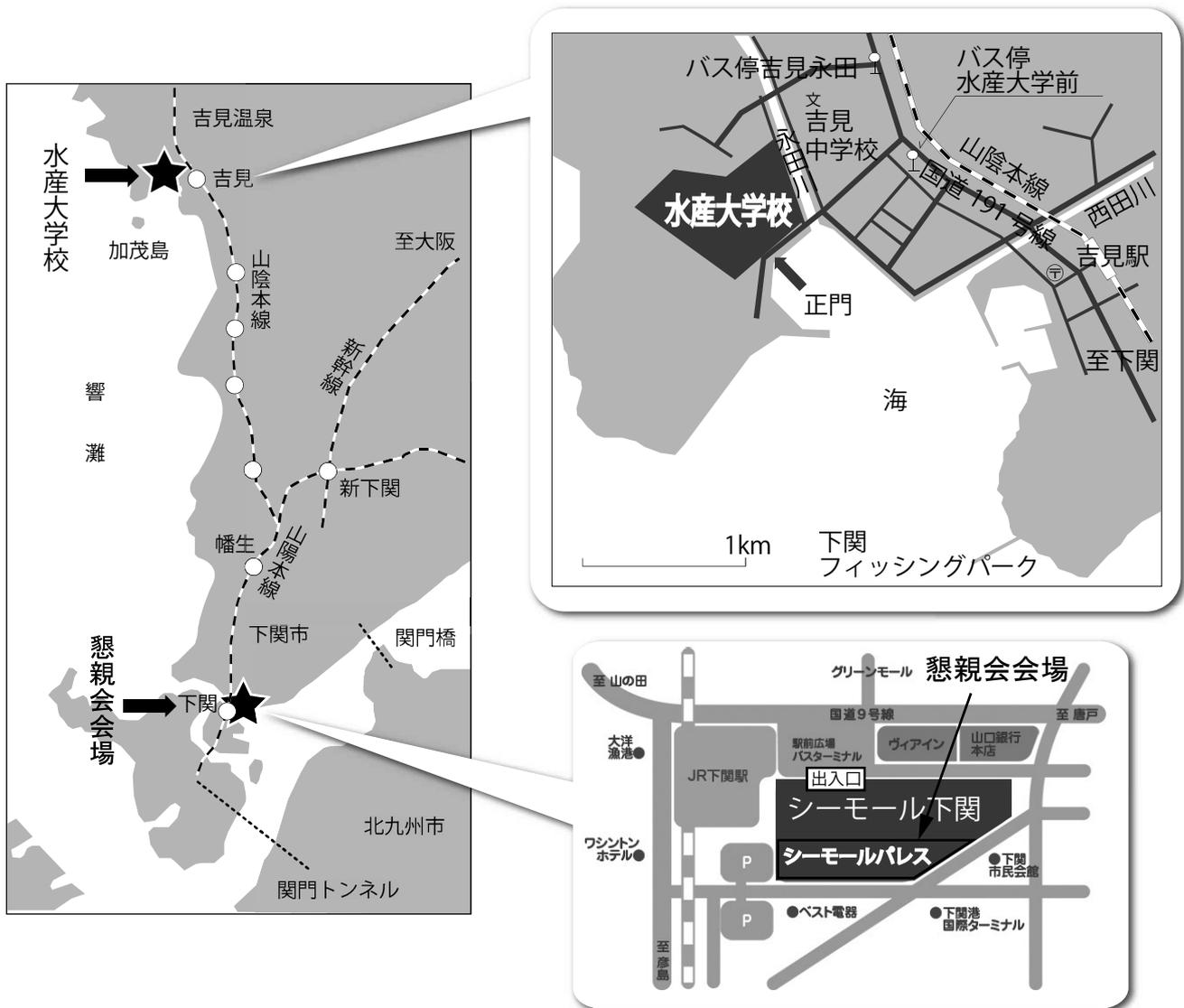
会場配置図（水産大学校キャンパス）



講義棟拡大図（口頭発表・ポスター発表会場など）



2012年度日本魚類学会年会会場および 懇親会会場へのアクセス



年会会場【水産大学校キャンパス】へのアクセス

●JR利用

- ①JR山陰本線「吉見駅」下車後、徒歩15分またはタクシー5分
- ②JR山陽本線「幡生駅」にて、JR山陰本線に乗換え、その後は①参照。

●サンデン交通バス利用

JR下関駅前バスターミナル3番のりばで「北浦線（吉母港または川棚温泉行き）」に乗り、「水産大学校前」または「吉見永田」で下車し、徒歩5分。

懇親会会場【シーモールパレス】へのアクセス

●JR下関駅のすぐ隣にある「シーモール下関」館内の2階

●年会会場からは貸し切りバスを運行します。午後5時30分頃発車予定。